

小さな工夫

神奈川県川崎市立玉川中学校

二年 大内 結月

本格的に暑くなるうという七月上旬、私の寝室のエアコンが壊れた。同じ部屋で寝ている暑がりな私と妹は中々寝れずに扇風機一台でエアコンが直るまでの四日を凌いだ。その四日間は私たちにとって最悪の夏となった。お盆の頃に、祖母の家に行った。祖母の家は昔ながらの和風な家でリビングには縁側があり、とても温かみがある家だった。私たち家族はそのリビングに布団をしいて寝るのだが、私はこの部屋にエアコンが無いことに気がついた。暑さ対策として古びた扇風機一台が回っているだけなのにとっても快適に寝ることができた。その要因として大きな役割を果たしているのは縁側だ。縁側は部屋の温度を一定に保ったり、風通しを良くしたりしてくれる。

なるほど。これが快適な住まいか。そう思った私は自分の寝室を見直した。エアコンを直しただけでは暑さ対策の根本的な解決にはならない。だからこの本にもあるように換気にこだわった。私の寝室は窓が一つしかないため、窓のそばに扇風機を置き、風の流れを作った。そして氷まくらや冷感素材の布団を使用した。するとエアコンの設定温度を上げても前より快適に寝ることができた。結果的に節電にも繋がり、自分なりに快適な寝室を作ることができた。

このように、私は自分が感じる問題点に対して根本的な解決方法を探し、自分なりの快適な住まいを作ることが大切だと思う。住まいとはいかなくとも、小さな工夫で自分の部屋であれば私達でも変えることができるのではないだろうか。今、私は冬でも快適に過ごせるように準備中だ。